

「わがまちを行く 平城・相楽ニュータウン」

令和3年(2021)1月31日発行

「まちびらき」から半世紀

奈良市北部の丘陵地、近鉄高の原駅を中心に開発された「平城・相楽ニュータウン」は昭和47年(1972)の「まちびらき」から間もなく50周年の節目を迎える。住宅や商業施設、教育施設をはじめ、公園や緑地、遊歩道などが計画的に整備された日本屈指のニュータウンは半世紀にわたって、豊かなコミュニティを育みながら住民の快適な暮らしを実現してきた。このニュータウンに暮らす人々の地域社会を守り育てる取り組み、その魅力を紹介する。

写真で見る今昔物語

まちびらき当時は荒野の雰囲気

撮影者・山本公弘さん

まちびらき当時は平城第2団地と10軒ほどの戸建てが荒野の中にある感じ。駅のホームは工事用の足場を使った仮設だった。今では、近所づき合いがある田舎と便利な都会の両面の良さを持つニュータウンに発展し、快適に暮らしています。



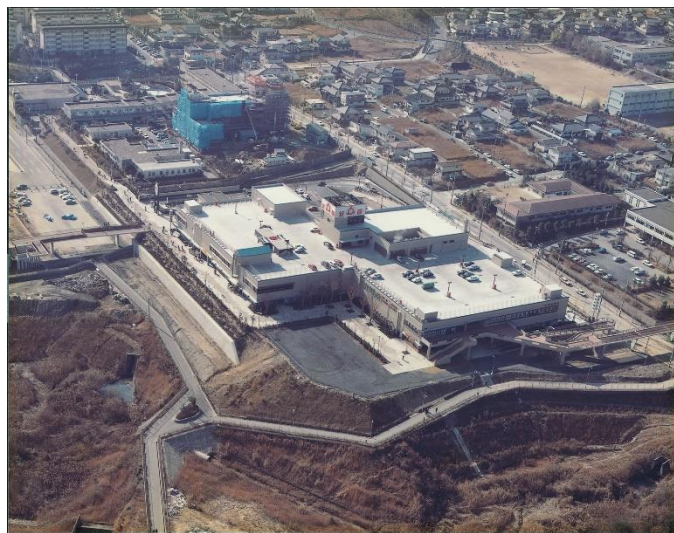
昭和47年(1972) 仮設の近鉄高の原駅

写真提供：山本公弘氏



昭和50年(1975)平城第2団地のラジオ体操

写真提供：平城第2団地自治会



昭和56年(1981)サントウン高の原(現すずらん館)

写真提供：関西文化学術研究都市センター